

1 限定用法（名詞を修飾する用法）

分詞は名詞の前または後ろから修飾し、その意味を限定する。

《1》〈分詞+名詞〉

① We watched the **rising sun** from the mountaintop.

283

私たちは山頂から日の出を見た。

② She made salad with **boiled egg**. 彼女はゆで卵でサラダを作った。

284

分詞が1語で名詞を修飾する場合には、名詞の前に置くのが一般的。

現在分詞：「…している（途中の）」（能動的）（①）

過去分詞：「…される、…されている」（受動的）（②）

※自動詞の過去分詞については p.244 「ここが Point!」を参照。

類例 a **crying baby** 泣いている赤ちゃん

frozen foods 冷凍食品

a **fixed price** 定価

an **amazing experience** わくわくするような体験

the **setting sun** 夕日



能動的か
受動的か
意味で判断!

【！】 自動詞の過去分詞は〈完了〉（…してしまった）の意味を持つことに注意。

fallen leaves 落ち葉〔←落ちてしまった葉〕

a **retired player** 引退選手〔←引退してしまった選手〕

なお、他動詞の過去分詞は〈受動〉（…される、…された）の意味。

frozen foods 冷凍食品〔←凍らされた食品〕

【!】分詞 1語が名詞を修飾するとき、名詞の前からと後からでは次のような微妙な意味の違いがある。

I have to buy some **frozen** foods today.

今日私は冷凍食品をいくらか買わなければいけない。



There are some foods **frozen** in the refrigerator.

冷蔵庫に凍っている食品がいくらかある。

分詞 1語が名詞の前に置かれると、分詞は（名詞の）「恒常的性質」を表すことが多い。つまり、「『凍られた、冷凍の』」という一定程度の時間変わることのない性質・特徴を持つ食品」→「冷凍食品」と考えることができる。

これに対し、分詞 1語が名詞の後にあると、（名詞の）「状態・行為が一時的」であるというニュアンス。2つ目の例文では、例えば冷蔵庫が冷えすぎて食品が一時的に凍らされてしまっているという状況。

類例 the people **concerned** 関係している人々、関係者

the students **involved** 関係している生徒

the issue **discussed** 議論されている問題



英語の原理 分詞形容詞とは

分詞形容詞（動詞の変化形である分詞が形容詞としての性質を持つようになったもの）では、例えば日本語では「驚く」と〈能動〉で表現されるが、英語では be surprised と〈受動〉で表されるなど、英語と日本語とで〈能動〉と〈受動〉が逆になっていることが多い。

原理 元の動詞が「…させる」という意味を持っているものがほとんど。〔→感情を表す受動態 pp.154-156〕

a **surprising** fact 驚くべき事実〔←人を驚かせる（ような）事実〕

a **surprised** look 驚いた表情〔←驚かされた表情〕



注意しよう！ go doing の後の前置詞に注意！

○ My sister and I went shopping **in** Shibuya. 姉と私は渋谷に買い物に行った。
 × My sister and I went shopping **to** Shibuya.

「…しに行く」という日本語からの連想で、go shopping **to** としがちだが、前置詞 **to** を使うのは誤り。shop **in** ... で「…で買い物をする」という意味なので、動詞 shop (買い物をする) との結びつきで前置詞が決まるから。



類例 ○ We went skating **on** the lake. 私たちは湖へスケートをしに行った。
 × We went skating **to** the lake.

【!】 go missing (行方不明になる) という言い方もある。

The woman **went missing** in 2002.

その女性は 2002 年に行方不明となった。

【!】 〈get doing〉 は「(ぐずぐずしないで) …し始める」 (= start doing)。

get going 行き始める get moving 動き始める

get working 働き始める Let's **get going**. さあ、行こう。

2) **keep, leave, find** など

類例 Sorry to **keep** you **waiting**. お待たせしてごめんなさい。

You need to **keep** us **informed** of any further developments.

その後何らかの進展があれば私たちに知らせてください。

The mother came home to **find** her son **sleeping** in the living room. 母が帰宅すると息子は居間で眠っていた。

She **found** her boyfriend **standing** behind her.

彼女はボーイフレンドが背後に立っているのに気づいた。

He **found** himself **locked** out of his own house.

彼は自分の家から締め出されているのに気づいた。

keep, leave, find なども、1) の知覚動詞と同様、現在分詞や過去分詞とともに使われる。

keep O doing で「O が…している状態に（意図的に）しておく」

keep O done で「O が…されている状態に（意図的に）しておく」

leave O doing で「O が…している状態にしておく、放つておく」

leave O done で「O が…されている状態にしておく、放つておく」

find O doing で「O が…しているのに気づく、わかる」

find O done で「O が…されているのに気づく、わかる」



注意しよう！ × I was stolen my car last night. は誤り！

「私は昨夜車を盗まれた」のつもりでこういうのは誤り。

steal O で「O を盗む」で、O には盗まれるモノが来るため。

正しくは次の 2 つの言い方が可能。

I had my car **stolen** last night. 〔盗難に遭った人を主体にした言い方〕

私は昨夜車を盗まれた。

My car **was stolen** last night. 〔盗まれたモノを主体にした言い方〕

私の車は昨夜盗まれた。

※ 〈被害〉を表す have A done / be done のニュアンスの違い

have A done は被害・影響を被ったものが主題となるのに対し, be done は直接移動・変化させられたものが主題となる

“What's the matter with you?” “I **had** my car **stolen** last night.”

「どうしたんだい」「昨晩車を盗まれたんだ」

“Where is your car?” “It **was stolen** last night.”

× “I was stolen my car last night.”

「君の車はどこにあるのかい」「昨晩盗まれたんだ」

〈get + O + 過去分詞〉では、「(時間をかけて・努力して自分で) …する」という完了の意味になる場合もある。

I'll **get it done** for you. ⇔ I'll do it for you. それはぼくがやっておくよ。

Get your homework **finished** by 10. ⇔ Finish your homework by 10.

10 時までに宿題を終わらせなさい。

● make oneself understood (17)

「自分の言っていることを相手に理解してもらう」という意味で使われる。

原理

understood という過去分詞が使われるのは、「自分自身が（相手から）理解された状態にする」という意味があるため。

原理

〈make + O + 現在分詞〉という形がないのは「O が…している最中である」という途中経過を表すのにはふさわしくないから。make がそもそも「作る」という意味で完結性を表すことによる。

類例 make oneself heard 自分の声を相手に聞かせる、届かせる

Why don't you shout to **make yourself heard** above the noise?

騒音に負けずに声が聞こえるよう叫んでくれないか。

《2》「…し、そして…」〈連続した動作〉

20 **Changing** into pajamas, she got into bed.

302

彼女はパジャマに着替えると、ベッドにもぐりこんだ。

change into pajamas (パジャマに着替える) という行為の後で, get into bed (ベッドにもぐりこむ) という行為が続いて起こったことを表す。したがって、次のように言い換えることができる。

→ She changed into pajamas and got into bed.

doing で使われる動詞は普通、動作動詞。

類例 **Stretching** out his arm, he tried to pick an apple off the tree.

彼は手を伸ばしてリンゴを木から摘み取ろうとした。

There was an accident in the highway, **creating** a heavy traffic jam.

高速道路で事故が発生し、ひどい渋滞が生じた。



《3》「…したとき」〈時（同時）〉

21 **Looking** at the clouds in the sky, I felt summer was just around the corner. 空の雲を見て、夏も近いと感じた。

303

接続詞 when や while を用いて次のように言い換えることができる。

→ **When** [While] I was looking at the clouds in the sky, I felt summer was just around the corner.

doing で使われる動詞は普通、動作動詞。

類例 **Brushing** my teeth, I heard my mother calling me.

歯を磨いていると、母が私を呼んでいるのが聞こえた。

Driving down the main street, I found a lot of convenience stores.

大通りを車で流していると、コンビニが何軒もあった。

類例 **Running out of money, I decided to skip the lunch.**

お金が心もとなくなったので、昼食を抜くことにした。

Being treated like a king, the boy grew to be incredibly selfish.

王様のようにちやほやされて育ったので、その少年は信じられないほどわがままになつた。

Noticing her lack of motivation, the coach replaced Jun with Yui.

やる気のなさが見てとれたので、コーチは純を唯と交代させた。

分詞構文が〈譲歩〉や〈条件〉を表すこともある。

〈譲歩〉の場合, doing で使われる動詞は普通, 状態動詞。

また主節には、逆接・譲歩を表す副詞句が使われていることが多い。例えば, still, nevertheless, nonetheless, all the same (それでも、それにもかかわらず) など。

Acknowledging the lack of evidence, the police **nevertheless** decided to arrest him. 証拠が不十分なことは承知だったが、それでも警察は彼を逮捕することにした。

〈条件〉の場合, doing で使われる動詞は普通, 動作動詞。

また主節には, will や may などの助動詞が使われていることが多い。

Going uphill for another 30 minutes, you **will** find a beautiful view of the city. もう 30 分も登れば、町の景色がきれいに見えますよ。



【!】〈being/having been の省略〉は、形容詞が補語の場合でも起こりうる。

Unable to accept the situation, Tom cried like a baby.

状況を認めることができず、トムは赤子のように泣いた。

Aware of the fact that I was wrong, I finally apologized to her.

自分が悪いということは理解していたので、私は結局彼女に謝った。



《2》分詞構文の否定形

24 Not knowing where the bus stop was, I asked someone on the street. バス停がどこか分からなかつたので、通りの人に尋ねた。 306

分詞構文を否定形にするには、分詞の直前に not あるいは never を置く。

否定文にすると「…していない」という状態が続くので、1つの状態動詞として働くと考えることができる。そのため、（主文の前または主文中で使われて）原因・理由を表すことが多くなる。

類例 **Not finding** her at his right, he swung around to his left.

右を見ても彼女が見つからなかつたので、彼は左の方をさっと振り向いた。

文末に否定の分詞構文を使うと、原因・理由の意味が薄れ、付帯状況のニュアンスが強くなる。

She walked by Tom Cruise, **not acknowledging** him.

彼女はトム・クルーズの脇を通り過ぎたが、彼には気付かなかつた。

《4》〈接続詞+分詞〉

27 I fell asleep **while watching** TV. テレビを見ながら、寝てしまった。 309

主節との意味的な関係をはっきりさせるために、doing の前に when, whenever, while, until, if, unless, though, althoughなどの接続詞を置くことがある。

副詞節中における主語と be 動詞の省略と解釈できる場合もある (→ pp.456-457)。

27' ≒ I fell asleep while (I was) watching TV.

類例 **Though required** to do their homework, many of the students failed to turn it in.

生徒たちは宿題をしなければならなかつたが、提出しない者も多かつた。



Try to be polite **when answering** the phone.

電話に出るときは丁寧に話すようにしなさい。

If required, I would be glad to make a donation.

求められれば喜んで幾らかの寄付をしよう。

【!】 because, since など理由を表す接続詞がこの形で使われることはない。